

第12回 市民動物園会議

会 議 録

日 時 : 平成23年5月30日(月) 14時開会
場 所 : 円山動物園内 動物園プラザ

1. 開 会

○原田委員長 皆様がお集まりのようでございますので、ただいまより第12回市民動物園会議を開きたいと思えます。

2. あいさつ

○原田委員長 まず最初に、酒井園長からごあいさつをいただきたいと思えます。

○酒井円山動物園長 この4月に前加藤理事が保健福祉局長に転出しましたので、後任の二木理事をご紹介いたします。

○二木環境局理事 この4月に環境局の理事に就任しました二木でございます。どうぞよろしくお願ひいたします。

きょうは、平成22年度の事業報告と、ことしで60周年を迎えます周年事業のご説明、そして、円山動物園の基本計画の進捗状況等についてご説明させていただきたいと思えます。

皆さんの忌憚のないご意見をいただきながら、よりよい動物園にしていくためにいろいろな施策に反映していきたいと思えますので、よろしくお願ひしたいと思えます。

きょうは、どうぞよろしくお願ひいたします。

○酒井円山動物園長 本来、第12回市民動物園会議は4月前半に開催したいところでしたが、4月1日付で人事異動がございまして、私どもの前任の嶋内経営管理課長が影山にかわりまして、それから、高橋調整担当課長にかわりまして辻田が来ておりますので、両名をご紹介したいと思えます。

○影山経営管理課長 このたび、4月1日付で観光文化局から転入してまいりました経営管理課長の影山でございます。どうぞよろしくお願ひいたします。

○酒井円山動物園長 続きまして、調整担当課長の辻田でございます。

○辻田調整担当課長 同じく、4月1日に南区戸籍係から異動してきました調整担当の辻田と言います。よろしくお願ひいたします。

○酒井円山動物園長 2名の課長が新しくなりましたが、私は続投でございます。何年続くかわかりませんが、一年一年を、いつも真剣で本気でございまして、引き続き100万人を目指して頑張っていきたいと思っております。

先ほど二木理事からもございましたが、ことしは60周年ということで、この5月5日にめでたく節目の年を迎えました。非常に名誉ある年にこの任に当たることができ、気持ちも新たにこの1年間を頑張っていきたいと考えてございまして。

そして、金澤園長の時代に策定しました円山動物園基本構想、基本計画の集中取り組み期間の最終年もこの60周年の年でございまして。目標の100万人もこの年を一つの目標にしておりますので、それに向けての総括的な1年ということで私どもも位置づけております。

本日は、昨年の実績と集中取り組み期間の最終年に当たりまして、この先、基本計画を

どう評価し、どう見直していくのかという作業にも取りかかったところでございますので、そのあたりのご説明をさせていただきまして、委員の皆様方からの忌憚のないご意見をちょうだいし、さらによりよい円山動物園をつくっていきたいと考えていますので、本日もよろしくお願ひしたいと思ひます。

○原田委員長 ありがとうございます。

今年度は、60周年と、基本計画の集中取り組み期間の最終年でございます。何かと行事も多く、取りまとめの期間でもございますので、市民動物園会議としてもきちんとした取りまとめをしたいと考えております。皆様のご協力をよろしくお願ひします。

3. 議 事

○原田委員長 それでは、議題1の平成22年度運営状況報告について、資料説明をお願いいたします。

○事務局（酒井円山動物園長） お手元の資料1-1から1-4をごらんいただき、最初に22年度の運営状況について報告させていただきたいと思ひます。

まず、資料1-1の入園者の状況でございます。

22年度の年間の入園者数はトータルで83万2,419人でありまして、21年度の92万3,503人に対しまして9.86%の減でございました。

昨年度を総括しますと、プラスの要因としましては、5月にオラウータン、そしてシンリンオオカミの赤ちゃんが誕生、繁殖成功ということがございまして、その後の公開でたくさんのお客様に入園いただきました。また、7月にはレッサーパンダがツインズで生まれまして、10月から公開し、お客様の人気を博したところでございます。また、秋口には、キッドランドが9月30日をもちまして撤退ということで、8月末から9月いっぱいにかけて500円で乗り物乗り放題としましたところ、たくさんのお客様を呼びまして、9月の入園者数も非常に伸びました。それから、2月には既に60周年次に入っているということ、また、キッドランド跡地の2ヘクタールという大きな土地があり、スノーフェスティバルを拡大しました。そして、雪まつり期間は、雪まつり会場と同調しまして入園料を無料にしまして、この期間だけで3万2,000人を集客しました。特に、2月11日は天候にも恵まれまして、この日だけで9,500人ということで、もうちょっとで冬場に1万人というところまで行きまして、冬場としては非常に画期的な数字だったのではないかと考えております。

一方、マイナスの要因としましては、希少種でありますホッキョクグマの繁殖のために、全道の動物園で連携しようという動きを21年度にやりまして、人気だったイコロとキロールが、既に大きくなっていたとはいえ、帯広に転出したということで、この直後からお客様の足が急速に鈍った事実もございました。それを引きずりまして、22年度の4月に関しましては、ここ数年で最低の数字でした。これは、イコロとキロールだけではなくて、3月末から5月の初めにかけて、非常に寒く、雪が残る時期が続きまして、この気象条

件もあわせて非常に出足が低調だったと分析しており、ゴールデンウィークの初めまでこうした気象条件の影響をかなり受けたと思っております。

また、夏場の7月、8月は、非常に雨が多く、猛暑も重なりまして、21年度よりもお客様の出足が鈍かったと分析しております。

そういうことがありまして、昨年度は、プラス要素がありながらも、そういうマイナス要因とのバランスの中で、全体としては21年度に比べて約10%の減ということで、一番下のグラフを見ていただきますと、ゴールデンウィーク期間中に開いた差がほぼそのまま並行して1年間回復できないまま10万人の差をもって1年間が終了した形でございます。

続きまして、資料1-2をごらんください。

経理状況でございます。

今申しましたように、昨年度は有料入園者が10万5,815人の減となりました。したがって、21年度の歳入が3億3,400万円余だったのに対し、昨年度は2億6,000万円ということで約7,400万円のダウンになっています。一番大きな要因は、先ほど言いましたように、10万人の減ということで、それは有料、無料でバランスよく減になったわけではなく、10万人のほぼすべてが有料入園者数の減につながったという結果でございます。すなわち、無料入園者数そのものの数は変わらなかったのですが、有料入園者数がマイナス10万人になったということで、単純に言いますと、有料入園の1人単価は600円ということで、約6,000万円の減額になったということです。

その下の広告料は、ほぼ横ばいでございます。

また、寄附金につきましては、21年度の2,300万円余が1,500万円ぐらいになったということで、次のページの1-3をごらんください。

寄附金の内訳でございますが、アニマルファミリー、個人の寄附金、企業・団体の寄附金という3項目に分けて見ていただきますと、アニマルファミリーでは、21年度は590万円だったものが510万円程度で約80万円のマイナスになっております。アニマルファミリーの22年度の内訳を見ますと、継続率も伸びておりますし、会員そのものも、微増ではありますが、ふえています。では、一体何が80万円の減につながったかといいますと、実は、震災後に、非常に大口でアニマルファミリーに寄附をいただいていた企業が震災のために営業譲渡を余儀なくされたということがございます。21年度は130万円余りを寄附されていた分がすっかり減額になったということで、トータルすると80万円の減額になったということでございまして、震災の影響がここに出てしまったと言えると思います。

続きまして、個人の寄附についても約60万円程度の減額となっております。これも内訳は一緒ですが、21年度に個人で50万円をご寄附いただいた方がいまして、22年度はその方からご寄附をいただけなかったということで、この分がマイナスになっております。

続きまして、企業・団体です。21年度の1,600万円に比べまして、22年度は1,000万円強でございます。この内訳が下に出ておりますが、グッズの売り上げ、園内売店収益の寄附につきましては、イベント等を積極的に行って売り上げが伸びたということもございまして、一様にプラスでございます。しかし、一番下のその他の支援ということで、昨年まで札幌市にご寄附をいただいていた大口の企業が昨年8月のキッズタウン、今年2月のスノーフェスティバルに、寄附という形ではなくて、企業のプロモーションも兼ねまして事業協賛という形での支援という形態に変えたことから、寄附金としてはトータルで約800万円程度が減額になりました。

その結果としまして、2,300万円だったものが1,600万円弱に減ってしまったというのが寄附金の内訳状況でございます。

先ほどの資料1-2に戻っていただきたいと思います。

寄附金の下の公園使用料でございます。これまで2,000万円から2,600万円で、21年度は2,500万円でしたが、22年度は1,800万円でございます。これに関しましては、振興公社が9月いっぱいキッドランドを撤退したということもございまして、公園使用料はその分が減額になりました。雑収入はほぼ横ばいでございますので、これらをトータルしまして、約7,400万円のダウンにつながったということでございます。

一方、収支均衡を目指しているわけですが、収入が約7,400万円ダウンしたということで、経常経費はその下の段の2番を見ていただきたいと思います。

上下水道料につきましては、ごらんのように7,000万円ということでほぼ横ばいでございます。その次の重油、灯油については、21年度の4,500万円が5,500万円ということで約1,000万円アップしてございます。これにつきましては、世界的な原油高の1年ございまして、それが現在もまだ続いている状況でございます。この単価のアップが大きくきいて、1,000万円のプラスになったと考えております。

続きまして、電気・プロパン代ですが、これについても約200万円の増額をしております。これについては、2月の段階でスノーフェスティバルでかなりの電気の使用がございまして、これに伴って基本料金が1ランクアップしてしまい、これが響いての200万円アップとなっております。

次の維持管理・委託費でございます。これに関しても、効率的な入札を目指しまして、契約行為を行ってまいりましたが、22年度は21年度に比べまして落札率がかんばしくありませんでした。この落札率によりまして約600万円の増額になってございます。

続きまして、えさ代に関しましても約400万円強アップしております。これについては、特にリンゴなどの大量購入している果物、野菜類の値段の高騰がございまして、400数十万円のアップになりました。これも単価のアップがきいているところでございます。

イベント、事務費等については、ほぼ横ばいで200万円程度の減額にはなりましたが、トータルしますと、22年度は4億円の支出ということで、21年度に比べまして経常経

費で約2,000万円のアップという結果でございます。

歳入、そして経常経費のバランスを右の黄色い線と緑の線であわらしてございます。21年度の収支バランスは、もうちょっとでプラスマイナスゼロの5,000万円のところまで行きましたが、22年度は、残念ながら、再度、この差が開いてしまったということで、22年度は約1億4,000万円の収支差でございました。収支差という面から見ますと、非常に厳しい結果だったと受けとめてございます。この辺につきましましては、後ほどご意見をいただければと思います。

次に、資料1-4をごらんください。

22年度に行いました事業の内容でございます。昨年度は、裏面にも記してありますように、約76の事業を、円山動物園、NPO、企業の共催をいただきながら実行してまいりました。ここで我々が反省しなければならないのは、21年度に服部副委員長からもきちんとした評価をするようにというご意見がありましたが、適切な評価指標を設けることができませんでした。後ほどご説明しますけれども、この辺の反省を踏まえまして、23年度の事業については、総括の年ということもございまして、事業の評価、効果の測定をきちんとやっというふうに思いますが、22年度につきましましては、このように実行させていただきましてという報告にとどめさせていただきます。

議題1の22年度運営状況報告については、以上でございます。

○原田委員長 ありがとうございます。

昨年度の運営状況報告でございましたが、委員の皆様からご意見をいただきたいと思えます。いかがでしょうか。

一昨年度は92万人と入園者数もかなり多くなりまして、収支も、先ほどご報告がありましたが、あと5,000万円ぐらいでとんとんに行けるかなという見込みでございました。しかし、昨年度は、天候不順や、人気者が移り変わって、入園者数が83万人と減りまして、収支についても少し開きました。経常経費が少し上がって、歳入が少なくなったということで、また少々差が開いたところでございます。

このまま行きますと、23年度は歳出が多くなるのではないのでしょうか。60周年、集中取り組み期間の追い込みもありまして、大丈夫かなと心配していますが、いかがでしょうか。

○服部副委員長 大変大事なことだと思います。結果として収支が出ましたので、これをどうのこうのという評価はしませんが、市民動物園会議の中でも、中間、あるいは四半期ごとにもう少しチェックをしておけばよかったと思います。チェックをしなければいけないということを痛切に感じました。そういう意味では、収支のバランスがとれなかったということは、市民動物園会議にも責任の一端があるかと思えますので、今後は、四半期のレベルでチェックをして、中間決算をきちんとした上で、前半、後半の動きをしっかり修正していくことが大変大事になろうかと思えます。

実際に、リスタートさせる段階でも、100万人を達成して収支のバランスをとろう、

さらには、人件費等々も含めた中でもできる限り収支がいい方向に向かうようにしていこうという中で、今回、1億4,000万円のマイナスとなったことは、動物園側の責任というよりも、市民動物園会議のあり方も検討しなければいけないのかなと反省しています。

これにかかわって、一番大事なのは有料入園者数の増加を図ることですけれども、それと同時に、アニマルファミリーですね。会議の中でも各委員から再三再四述べられておりますとおり、アニマルファミリーの拡大を位置づけていかなければいけません。それが、ひいては寄附金の増大につながっていくということです。寄附金で賄えるような収支バランス計画を根本的に考え直していくべきかなという感じがします。

総括的な話になりましたが、いずれにしても、結果としては収支バランスがとれなくなるということは、大変由々しき問題ではなからうかと感じました。

○原田委員長 ほかにいかがでしょうか。

○林委員 こういう下がり方は、園長も含めて皆さんも非常に厳しい状況で、来年にどうするかというところは難しいと思います。企業としては、原油高とか、外部環境は仕方がないことはありますが、入場者数をきちんと上げていくためにどうするかという対策が本当になされているのかということです。

もう一つは、私は前から言っていますが、旭山動物園は特別な存在であると考えてしまっている感じがあると思います。確かに、構造的にはそういう部分がたくさんあって、それは安直に比較すべきではないのですが、人が入る、入らないとか、教育をするとか、見せるということは、僕がここにいるのはプロモーションのためだと思っていますけれども、プロモーションに問題がなかったのかどうかということはもう少し検討すべきだと思います。

もっと言うと、プロモーションは、非常に厳しい不況のときに必要ですし、非常に景気のいいときも必要なのです。ところが、例えば気象条件、原油、環境条件はそれとは別個の問題として冷静に取り上げなければならないのです。プロモーションが自分たちで的確に行われているのか。プロモーションというと、どうしても宣伝、いやしく人に来てもらうことを願っているというふうに言いますが、基本的には、ここに来てもらうことで初めて飼育している意味があるし、市民の動物園としてのアピールをするのであって、人が来なければ、ただ単に研究しているだけになります。研究施設だとするならば、研究施設としてのきちんとしたPRをしているかということになるわけです。

研究施設の部分で言えば、円山動物園のは虫類館は極めて画期的なことをやっています。しかし、残念ながら旭山動物園のは虫類館が取り上げられるのです。これは悔しいと思っほしいのです。極めて悔しいです。市民の税金であんなにすばらしいものができているのに、なぜ取り上げられないのか。

メディアは何を見ているのだ、なぜ比較検討をしないのだと思うのです。ただ単に、人がいて、みんなが来るからそこに行こうと。それでメディアの役割を果たしていると思っほしているのかと言わざるを得ないです。やはり、新しいもの、子どもたちに見てもらいたい

ものを探して伝えるのもメディアの力だと思うのです。僕は、自分の仲間内としては残念に思うし、円山動物園の真価をまだまだわかっていない人たちがいる。それは、自分たち円山動物園がやらなければならない仕事であって、メディアはわからないのだということではないのです。

何を言いたいかというと、プロモーションをもっと真剣に考えたらどうかと思います。そうしないと、いつまでたっても飼育員の努力が報われないです。ただ、プロモーションは難しいので、簡単には言えません。ですから、しつこくは言いません。ただ、まだ遅くないですから、これから秋に向かってもう一回的確に、ある意味で食欲に、新聞社の方たち、テレビの方たち、あるいは市民のメディアもそうですが、プロモーションをしていただきたいと思います。

もう一つは、ロコミです。つまり、応援団がどれだけふえたかということがこの数字にはあらわれていないのです。アニマルファミリーはいいのですけれども、円山動物園を応援しようというものを何とかつくってほしいのです。それは、アニマルファミリーではなくても、つくってほしいのです。

最後に言いますけれども、旭山動物園で100万人か何万人かを越えたときに、100万人目のメダルをあげた人を取り上げたのです。どちらから来た方ですかと聞くと、札幌市ですと言ったのです。札幌市民が旭山動物園の100万人目のメダルをとったのです。僕は愕然としましたね。少なくとも札幌市民であってほしくなかったです。それは、札幌市にとってはすごい逆の宣伝になったのです。みんなが見た瞬間に、ああ、札幌市か。そうだよな、やっぱり。札幌円山動物園は大したことはないものな、となってしまうのです。

別段、札幌市民が100万人目にならないように、園長が横にいて見ていてくださいと言うわけではないですが、事ほどさように、自分たちだけがやればよいということではなくて、逆の宣伝になる可能性が非常に強いのです。は虫類館はその典型だと思うのです。つまり、は虫類館は、私ども札幌テレビも取り上げておりますし、ほかの局も取り上げております。ただ、タイミングですね。動物園がオープンした、春から新しいものができたというときに、は虫類館は旭山動物園のものだった。これはちょっと切ないです。

しつこく言いましたが、このところは即やっていただきたいのです。そうすることで、1万人くらいはすぐにふえると思います。ここは、すごく魅力のある場所だと思います。
○原田委員長 ありがとうございます。

ほかにいかがでしょうか。

○金澤委員 人がふえるとどうしてもお金がかかるというのは仕方のない現象です。やはり、大きく落ちてこないのが光熱水費なのです。全体で93%、えさ代だけをとると5,500万円が3,600万円ですから、大体30%は落ちています。ほかのものは落ち切らないです。上下水道は、水が大分よくなってきているというか、漏水が減ってきたから少し落ちついていますが、原油高はどのぐらいに該当するのですか。

○事務局（酒井円山動物園長） どのぐらいというのは、どういうことでしょうか。

○金澤委員 金額でもいいし、量の比較でもいいです。

単価については責任を持ってないとはっきり言っていて、量では3割ぐらいは落ちるようになりたいという話をしていたのです。

多分、熱源転換をしていっているから、大分落ちているはずですが。

例えば、17年度が幾らで、22年度は幾らですか。

○事務局（影山経営管理課長） 22年度の使用量が65万2,000リットルほどで、17年度は96万4,000リットルですので、68%ぐらいです。熱源転換もありますので、30%以上は落ちています。

○金澤委員 逆に言うと、ガスの方が上がっているのだろうけれども、結果的に一番高いものが落ちているのです。そこら辺からいくと、93%という率が90%や80数%ぐらいの数字になるのだろうという気がします。一番大きいものはここですね。維持管理費はどうしようもないところがありまして、これ以上下げるとなると、人を減らせ、全部をアルバイトにかえろという世界になっていくから、どうしようもないと思います。

あとは、林委員が言われていましたが、応援団ですね。基本構想に盛り込んだのは、円山動物園を60年前の原点に戻しただけだったのです。それは何かというと、原点は皆さんもご存じだと思うのですが、3種の動物が3年ぐらいで50種類くらいに一気にふえたのです。それはなぜかということ、市民がみんなで持ち寄って動物園にしようということをやってきたのです。そんな原点があったものだから、市民の手づくりを基本に据えて、だからといって、60年前と同じ原点ではなくて、考え方を一致させたつもりで基本構想をつくってきたのです。ですから、林委員が言われたロコミというか、応援団のスタートにしようということからやって、いろいろな方に市民参加してもらおうと。

人間はおかしいもので、お金は出さなくても口は出てきて、お金や自分の行動が出てくると、口はさらに出てきます。その口は、動物園に向くのではなくて、周りに広がっていくものがあるので、そのロコミを期待してやろうということをやった結果、少しずつ伸びてきたのです。

ですから、原点をもう一回考えて、どうやって人をふやすかということは真剣に取り組まなければならないかもしれません。私は、宣伝で人が集めるのは余り好きではないので、実力で集めたらどうかと思います。

旭山動物園が必ず春先に大きく取り上げられるのは、春と夏に入れかえで一休みするわけです。その再オープンが必ず取り上げられるので、あそこは年2回は確実にマスコミに全体を露出させられる仕組みがあるのです。それで、札幌も冬休みをつくろうかと議論したのですが、うまくいかなかったのです。そういうこともあって、旭山動物園はなかなかおもしろいやり方をしていて、結果的に今の時代には良いと思っているのです。

取りとめのない意見ですが、それぞれの園の特徴があっておもしろいです。ただ、先ほど言われたように、プロモーションを再評価して、どうやって客に結びつけるか、逆に言うと、動物園側の実力を評価させてもらえる姿が必要です。これは、どこの職場もきっと

そうだと思います。悪いことをしているわけではなくて、みんないいことをしているのだけれども、それをどう評価してもらえるか。ちょっと難しいところになりますね。

○山崎委員 収支のことですが、21年度は、92万人が来て、赤字が4,600万円です。仮に100万人が来てどうなのかということもありますが、先ほどアニマルファミリーや寄附金の話もありましたけれども、寄附金はすごく不確定なものですし、お話にもありましたように、震災の影響をもろに受けますね。

動物園は、そもそももうけるような施設ではないですし、教育の場ということを考えれば、どれほどまでの赤字が許せるかということがあると思いますが、光熱水費や維持管理費はかなり節約されていると思うのです。どこの動物園も頑張っていると思うのです。現実として、100万人は難しい数字だと思うのですが、過去5年の平均入場者数は60万人ぐらいになるのでしょうか。70万人ぐらいですか。その入場料で健全にやっというとした場合に、突飛なことを言うかもしれませんが、動物の個体数です。オオワシだけでも4頭いるのでしょうか。赤ちゃんを産む檻があって、こちらに2頭いますね。ですから、個体数がこんなにたくさん必要なのかと。すごく魅力的な動物もいれば、ひっそりしているものもあります。えさ代だけはかかるけれども、そんなに魅力がないと言ったら動物に失礼ですが、そういうものもいるのではないかと思うのです。

ですから、動物園の規模として、そんなにいっぱい飼育する必要があるのか。この入場者数に合った規模でやっていって、魅力ある動物は徹底的に魅力ある見せ方をすればいいと思いますし、そういう議論が今後は必要なのではないかと感じました。

○事務局（酒井円山動物園長） ありがとうございます。

ご意見は、もっともなところが多いと思います。これまで60周年の歴史の中で、先ほど金澤前園長からもお話がありましたが、3種類からスタートして、市民の持ち込みがありました。そして、その時々々の園長の考え方ということで、一時は今よりもっと多くて、昆虫も含めて物すごい展示数があった時代がございました。今は昆虫を除いても170種類の700点ほどですが、200種類をゆうに超える種類がいて、動物の数もかなり多かったです。

そういう効率的な運営もありますが、それぞれの動物の個体の環境が非常に重要視されるようになってきて、最近の言葉ではエンリッチメントと言いますが、そういう考え方もあり、我々は動物園でどういう種類を飼うのが適正なのかという議論を、金澤園長の時代の平成20年ぐらいにやりました。選択と集中という言い方をしまして、今回の基本構想の一つの根拠になってございます。円山動物園で飼育するにふさわしい動物とは何なのか、それだけ技術と税金、お金をもってやるわけですから、飼うにふさわしいものは、やはり希少であって、繁殖が難しく、世の中でどんどんと減ってきている中で、動物園で頑張ってその種を保存していこう、場合によっては、それらが野生に復帰できるような体制をつくらうということです。それから、その動物が持っている背景の環境をその動物を展示することによって市民にわかっていただくというメッセージ性という観点から今いる動

物を選んだと思っております。

ただ、世の中は、環境や状況もどんどん変化していますので、こういうものは常に見直しをしていかなければならないと思います。ですから、今、山崎委員がおっしゃられた視点は、我々も常に持ち続けてやっていかなければならないと思います。

また、飼育している数はどのぐらいがふさわしいのかということも常に議論しております。スペースの問題もあったり、他の動物園との関係もあります。一時的にたくさん生まれたヨウスコウワニもありますが、ああいうものに関しては、動物園のネットワークを使ってほかのところで繁殖させた方がいいということで移動させながら数のバランスをとるようにしております。ですから、我々は、そういう視点は常に忘れないで、肝に銘じて動物園の運営をしていかなければならないと思っております。

○金澤委員 つけ加えますと、動物園の中では、こども動物園にいる動物以外はほとんど希少動物です。また、数の問題は、繁殖を目的にしますから、最低2頭がペアで必要です。しかし、どちらかが死んだときのスペアも必要です。それから、繁殖適齢期が過ぎた後、よそに出すとか殺処分をするわけにはいかないのです。そういうこともあって複数要るのです。ですから、繁殖するものは、逆に言うと展示ではなくて、繁殖施設側に回すと理想形ができるのです。ですから、目に見えるものは展示用の動物で、目に見えないところに繁殖用の動物を置くのが理想形です。

○事務局（酒井円山動物園長） それを実現しているのが、先ほど林委員がもっと自慢してプロモーションをしろと言ったのは虫類館です。は虫類館は、そのバックヤードで繁殖させるのです。言ってみれば、控え投手の間です。ちょっと調子が悪くなったり、もうちょっと環境が静かなところにして繁殖させたいというときに、フロントに出て展示しているものと入れかえます。だから、個体がかわっているときがあるのです。また、種類もかえられるようになっていきます。また、温度コントロールもその個体に合わせてできるように小部屋になっています。それらを動物園全体でできるということが理想だと思っております。

○原田委員長 いろいろご意見が出ておりますが、私の感想を申し上げますと、最近、円山動物園は、どなたに聞いても割合評判がいいのです。これはすばらしいことだと思うのです。この基本構想づくりが始まったころは行ったことがないという人ばかりでしたけれども、最近では、この前、行ったらすごくよかった、随分変わったねという評価をされる方が非常に多くなりました。これは、かなり質が変わってきたということと、サービスの高付加価値化ですね。ただ動物を見せているだけではなくて、檻や獣舎の工夫がすごく新鮮に目に映っています。

オランウータン舎は、もともとコンクリートのベースだったのです。だから、オランウータンがその割れ目から出ている草を一生懸命にちぎっているのが何ともかわいそうな感じがしましたが、今は木や草がたくさん入っております。そういう点では、随分変わった獣舎がふえてきていると思います。オオカミ舎もそうですし、エゾヒグマ館もそうです。あそこは、またはげ山のようになってしまいましたが、あれも工夫次第では緑を保つこと

ができるのではないかと思うので、その辺のアイデア出しが必要かもしれません。

そういうことで、中身が随分と変わってきました。これはイベントの数がただ多いということではなくて、みんなが見たいところを飼育員が説明してくれるサービスが付加されてきて、なるほどと思う説明が多く聞けるというところがあると思います。

もう一つは、飼育員の側から見れば、昔はイベント数がそんなに多くなかったのに、最近ではちょっと疲れてしまうという声が直接聞こえてきます。例えば、アニマルファミリーも、ファミリーの方が来られるので、そういうイベントをつくらなければならない。1頭当たりに2件くらいつくらなければならないので、それが結構負担になるのですという声が間接的にも直接的にも聞こえてきます。ただ、それによって変わったと感ずることにつながっている入園者が多いのではないか、リピーターの方もそういうことで再びやってくるということではないかと思うのです。

ただ負担を見逃していいかということ、それを何とか最新技術で、飼育員の負担にならないように、常時、家庭でも見られるようなディスプレイが必要なのではないかと思うのです。その辺が何とか改善できれば、昔から口すっぱく言っているのですが、100万人の人数の1%の1万人を2%ぐらいにして、2万人の人がアニマルファミリーの5,000円を支払ってくれれば、それだけで1億円になるのです。それで、常時、家でうちの子の姿が見られる、だから、子どもも今度の日曜日に行こうという形になってリピーターがふえていくということがアニマルファミリーの基本的な提案内容であったわけですが、それがなかなか実現できないところがあり、これは起草者として非常に残念であると思っております。つまり、省力化を行いながら人をふやすということをやらないと、先ほどのバランスが崩れていくのではないかと思うのです。

同時に、先ほど応援団をふやせというお話があり、私ももともとだと思います。応援団といっても、生き物が大好きで、動物が大好きでという人がボランティアになったり、ガイドになったりというシステムの上に乗ってこられる人たちです。そういう人たちは来るだけでうれしいのです。それから、この担当と決められると、その動物に対する勉強も非常に深くしていくのです。これは、動物に限らず、北海道野草の会みたいなものがたくさんあるのですが、その中のメンバーは物すごい勉強量です。これは本で読んだら何々だった、こういう性質がありますみたいなことをとうとうと述べてガイドする人たちがたくさんいて、それをいとわないのですね。これは、飼育員の負担を減らしていく役割も持っていて、入園者の人たちにいろいろな知識なり技術なりを教えてあげることができるのです。これは、動物園にとっても飼育員と同じように大事な人たちではないかと思うのです。

ただ、私の印象では、計算してみなければわからないところがあるかもしれませんが、ボランティアやガイドの数が入園者数に対してやや少ないのではないかと思います。お金を出す応援団と同時に、無償でやってあげますという人たちを呼び込む必要があると思います。

最後は、お金の話ですが、大口の寄附者が手を引いてしまうということは、メリットを

感じないからであって、中口ぐらいの入りやすい寄附のグレードをつくって、そういうクラスに対しては、ホームページなどで会社名がぞろぞろと動いて出てくるぐらい広告効果が上がるといことがないと、テレビのコマーシャルでも自分の会社の名前が出てこないようなところには広告投資をしないですが、それと同じことだと思います。こんなにお金を出しているけれども、うちの会社の名前が出てこない、それでは手を引っ込めるのではないかと思います。

そういう意味では、こちらも効果が得られる、向こうも効果が得られるという双方に効果がある形でないとい長続きはしないと思います。アニマルファミリー制度で5,000円を払っている人は、何か見返りが足りないのではないかと思っているのでは、去る人がいて、入る人がそれほどふえないのだと思います。今は500人程度でしたか、余りふえていないのです。微増といっても、私の感覚ではふえていないと思います。それが2万人ぐらいになるまで、入園者数の2%ぐらいのファミリーを抱える動物園になってもらいたいと思います。

○服部副委員長 その問題は、實際上、アニマルファミリーの会員数が伸び悩んでいるということに対する戦術といか、動き方が動物園として体系的にでき上がっておらず、ただ受け入れるのを待っているだけです。まさにサービスを強化していこうという考え方がその中に存在することは間違いないのしょうけれども、アニマルファミリーの募集に対する動きが具体的に進んでいかなければいけないのです。極端に言えば、担当者を決めてこの辺に対する手当をしていくと。あるいは、寄附金のしやすいシステムを構築する。動物園に寄附するのだけれども、まずは札幌市に寄附しなければならないわけですから、そういった観点からすると、自分の寄附したものが本当に動物園に行っているのかということ自体に不明瞭さがあります。

そういう意味では、もう少し明瞭性といいますか、公開していきながら、動物園として売れるシステムが明確に構築されていくと、寄附しやすいと思うのです。そういったところの再構築をしていかなければ、収支を合わせていくという観点から見れば、アニマルファミリーの2万人、あるいは寄附金の企業団体の目標数を決めて、企業を訪問するなり、メディアで流してもらいなり、ホームページを絶えず更新しながら状況を知らせるということをしていく努力がこの点について欠落していたのではなかろうかと思ひます。

ですから、今後は、この辺をもう少し強化していくと。企業、団体等に働きかけることによって、企業が抱えている社員の家族を含めていくと、莫大な数に膨れ上がっていくと思うのです。それをサポーターにしていけば、より入園者数の確保ができると思います。確保していかなければならないわけですから、ぜひ、その辺に手を加えていただき、先ほど林委員が述べられたように、サポーターをふやすという意味では、一点集中の絞り方ではなくて、あらゆる面からサポーターに情報提供ができるような考え方を施策の中に、動物園運営の動きの中に入れていただきたいのです。

やはり、サポーターをふやしていかなければならないと思ひますし、私は動物園が大好

き、私の動物だという位置づけまで持っていくには、まだまだ道半ばというか、欠落しているところがあったのではなからうかと思しますので、その点については今後に期待したいと思えます。

○事務局（酒井円山動物園長） 貴重なご意見をありがとうございます。

皆さん方からいただきましたプロモーションの再認識とそのやり方や事業等について戦略的に考えていくということ、それから、サポーター制度でいかにすそ野を広げていくのか、サポートしやすいような体制づくりを考えていきたいと思えます。

そして、私の感想ですが、この間、わたしの動物園というコンセプトで進めてまいりまして、そのコンセプト自体は非常に定着しつつあると思えます。ただ、逆に、わたしの動物園という形であるところが狭くなり過ぎていて、これは我々の努力不足のせいですが、90万人、80万人が来たと言いながら、リピーターに頼った数字になっています。ですから、いい意味でわたしの動物園でありながら、実質的に1年間に来ていただける人数が50万人に足るのかどうかというところでとどまっているのが現状だと思えます。そこが非常に問題だと思えます。

21年度は、イコロとキロールによって、今まで足を運ばなかった方々にも来ていただき、かなりすそ野が広がった部分はありませんでしたが、それを失ってしまったことによる22年度の10万人の減だったのではないかと思えます。

ふだん、動物園はニュースでは見るけれども、足をまだ運ぶところまではいかないという人たちに来ていただくためのプロモーションをどのようにしていくのか。やはり、100万人という目標、また収支の均衡という一つの目標を実現するためには、そこに力を入れなければいけなかったし、これからやる必要があるだろうというふうに、皆様のご意見をちょうだいして非常に深く感じました。ですから、そういうところを今後の運営に生かしていきたいと思っております。

○原田委員長 それでは、議題2に参りたいと思えますが、平成23年度予算等について説明をお願いします。

○事務局（酒井円山動物園長） 23年度の予算の概要についてでございます。

資料2-1でございます。

動物園運営管理は、予算として4億6,591万5,000円を計上してございます。この内訳でございますが、動物園の施設運営管理に4億5,100万円余、教育普及事業の展開ということで460万円余、野生動物復元事業について150万円、園内の内外装等整備費で800万円——これは、後ほども出てきますが、10月5日に日本動物園水族館協会の飼育技術者会議という全国会議がございまして、秋篠宮殿下と全国からお客様がいらっしゃるといことで、園内の老朽化した部分の手直し等を予定しております。そのほか、負担金で24万5,000円を計上しております。

また、下段に参りまして、動物園整備費に関しては、9億4,000万円余を計上しております。これに関しましては、アジアゾーンの建設がいよいよ23年度に始まりますが、

これに5億7,900万円を計上しております。また、新は虫類館がオープンしましたので、旧は虫類館・昆虫館の解体に要する費用として4,100万円余を計上しています。また、園内の熱源転換整備費ということで、2億6,400万円余を計上してございます。そして、は虫類館の横に新たなトイレの建設ということで3,500万円余を計上いたしました。残りがこれらの建設に係る管理費2,000万円余を計上しております。

これに対しまして、入園者の目標でございます。今年度は、先ほど申しましたようなことで100万人を何とか実現したいと思っております。このためには、昨年度は83万人でございましたので、今年度は17万人のさらなるお客様に来ていただかなければならないということでございます。

主な施設につきましては、既に4月23日にオープンしたものが新は虫類・両生類館でございます。先ほど申しましたように、新たに今年度に建設を開始するのがアジアゾーンで、夏前には着工になると思います。それとあわせまして、は虫類館横にトイレを建設いたします。

アジアゾーンに関しましては、2カ年の事業でございまして、今年度と来年度の2カ年にわたる建設が予定されており、オープンは24年度の冬ごろになると考えています。また、昨年のは虫類館の新設に伴いまして、今年度は旧は虫類館の解体工事を予定しております。

続きまして、資料2-2です。

先ほど、22年度事業のところでもご説明しましたが、今年度を実施予定の行事は、現在までに確定している64事業でございます。そのうち、番号のところに水色のマークをしているのは、これらにつきまして、お客様の満足度や実効性等につきまして、来園者の満足度調査も含めて実行していきたいと思っております。既に5月の春まつりの段階でお客様アンケートをとっていますので、これに引き続きまして、今週にございますEarth Day、また、Smoothie Zoo Night、前のLOHASナイトですが、これまでずっと続けているものに関しましても、お客様の満足度と効果性についてきちんと評価できるように準備しまして、来年度以降はこれをどうしていくのかということにつなげていきたいと思っております。

また、アニマルファミリーにはあえて水色がついておりませんが、アニマルファミリー制度は、先ほどいろいろとご指摘をいただいたことを踏まえまして、お客様の声も聞きながら、新しい制度に移行する必要があるものにつきましては、見直しも視野に入れて考えていきたいと思っております。

23年度の事業に関しては、以上でございます。

○原田委員長 ありがとうございます。

今年度の新しい計画についてご説明がございましたが、何かご質問等はございますか。

○田中委員 まだ先の話ですが、アジアゾーンの建設がありまして、入園者数が伸びないのは、雨とか、札幌ですと雪という問題がありますが、この施設ができることによって、

天気が悪くてもここで結構時間をつぶせるとか、そういう感じになると思いまして、質問させていただきました。

○事務局（酒井円山動物園長） 私どもは、そういう部分も期待しております。今まで、この基本計画を実行してきておりますが、新しく立てた基本計画に基づいて獣舎に関しましては、少なくとも、夏場だけではなくて、雨の日や冬場に関してもお客様がゆったりとごらんいただけるような施設ということを重要な要素としてこれまでも考えてきています。猿山のレストハウスを初め、エゾシカ・オオカミ舎、エゾヒグマ館、類人猿館はもともとそういうつくりにはなっていますが、今回ののは虫類館はまさにそういう施設でございます。

そういう中で、動物だけではなくてお客様のエンリッチメントを非常に大きな要素として、原田学長の市立大学デザイン学部でも、そういう視点での設計をしていただいております。

あとは、先ほど林委員からもご指摘がありましたように、そうしたプロモーション自体が足りないということで、せっかくそういうつくりをしても、まずは足を運んでもらわなければなりませんから、そこにより一層力を入れていく必要があると思っております。

○原田委員長 ほかにございますか。

○林委員 14億円の事業費と、収入で言うと、ペイラインですね。先ほど山崎委員も心配なさっていらして、服部副委員長はペイしなければだめだと言うかもしれませんが、ある程度頑張って、全体の1割弱のマイナスくらいだったらよしとしながら次に進めていけると思っています。ただ、ペイラインとして見ると、何万人が入ればペイするということになるのですか。目標数は100万人と書いてありますね。

○事務局（酒井円山動物園長） 園内整備費まで含めてという意味でしょうか。

○林委員 そうですね。整備費までかどうかわかりませんが、この事業費と入場料がありますね。

○事務局（影山経営管理課長） この運営管理費の中には、人件費も一部入っておりますが、6,000万円ぐらいが人件費だとお考えいただければいいと思います。それを引きますと、23年度予算としては、歳出ベースでは経常支出が4億円で、一たんは22年度ベースでの歳出を見込んでおります。

○林委員 そうすると、4億円だと結局は何万人ですか。

○事務局（酒井円山動物園長） 実は、単価が変わってまいりまして、21年度は300円ぐらいだったものが、昨年度は257円と下がってきています。ですから、どこに平均単価を求めるかにもよると思いますが、仮に21年度ベースだとすると、割り返せば、130万人ぐらいになります。

○林委員 130万人ぐらいが入らなければだめということですか。

○事務局（酒井円山動物園長） 先ほど服部副委員長がおっしゃったように、寄附金等に頼らないで、すべて入園者でその部分をペイさせようすると130万人が必要だということになると思います。

○服部副委員長 単純に計算すると、どうしても寄附金、あるいはアニマルファミリーの会費が1億円欲しいという言い方ではなくて、そういった観点から見て、2万人掛ける5,000円が確保できれば収支は安定するのです。

○林委員 それは、PMFでもそうですね。

○原田委員長 わかりやすい数値ですね。

○林委員 念のために申し上げます。山崎委員が収支を心配されましたが、基本的にはそうではなくて、僕らも長い間やっていて、収支均衡を目指しているけれども、その中にはいろいろなバランスがあると考えています。山崎委員がおっしゃるように、もし少なくなったら少し減らした方が実質的だということは非常に堅実な言い方ですが、そんなふうなまで考えていないのではないかと思います。

ちょっと心配になったのですが、動物を減らしてまでということではなくて、ある程度の収支均衡を常に目指していくのがこの会の目指すところで、無視してはいかないということですね。

○事務局（酒井円山動物園長） もちろんそうだと思います。ですから、基本計画に書かれている100万人で収支均衡するのであれば、当時から比べて30%の経費節減が必要だということだと思います。それに向けての努力は、やってきましたし、今も続けていますが、世界情勢などの不確定な外的要因によって、今、それが阻害されている状況にあります。その辺が18年度ベースと変わってきていますから、そこをどう評価するか。今は敷居がかなり高くなっております。

○服部副委員長 ですから、有料入園者数をふやしていけばいいのですが、動物園の性格上、さあ、集まれと言っても集まってくるわけではないですし、むしろ、集まれと言うと無料入園者が多く来園されます。どうしても、その中にアニマルファミリーという位置づけと、ドネーションの文化、動物園らしい文化の発信といえますか、新たな市民活動としての位置づけが必要だと思います。確かに、今、震災の問題でドネーションがどうも東北に向いているかもしれません。しかし、動物園に対する愛情という観点から見たら、ドネーションはやり方一つでもっとふやすことも可能ではないかと思います。この辺をふやしていく中で、入園者数100万人を達成していくことと同時に、足りない部分をドネーションに、あるいは、アニマルファミリーの会員増という動きをしっかりと明確につくり上げておく必要があると思います。

そういう観点から、実際にスタートしているわけですから、4月の入園者数は、有料、無料を含めてどのような位置づけになっているのか。もう一つは、23年度の水色になっている円山動物園春まつりの位置づけの評価、効果はどうだったのか。この辺をお聞かせいただけますか。

○事務局（酒井円山動物園長） 4月の入園者数に関しては7万2,000人ございまして、かなり落ち込んだ昨年に比べますと、182%です。一昨年には及びませんでした。昨年よりは、倍までいきませんが、そこまで伸びております。5月に関しては、今の

ところ前年比で20%減ぐらいです。トータルでは、4月、5月で昨年度を若干上回るぐらいの入園者数になるだろうと思っています。

○服部副委員長 要は、5月で15万人は達成するということですか。

○事務局（酒井円山動物園長） トータルです。昨年度は4月、5月で19万人ぐらいですが、今年度は20万人程度で、若干上回るぐらいです。ただ、一昨年には及ばないぐらいの数字ではないかと思っております。

5月のアンケートの結果については、まだ集計しておりませんね。

○事務局（影山経営管理課長） 今、手元にございませぬ。

○服部副委員長 どういう評価をされて、どういう結果が出たのかを知りたいと思います。それがスタートしているわけですからね。

そこで言えることは、21年度が一つの目安になると思います。21年度の数字を目安として見たときに、それを上回っていないと100万人は達成できないわけです。そういう意味では、21年度と対比しながらどうだったのかという評価をしていくべきだろうと思うのです。22年度との対比では評価しにくいと思うのです。そういう意味では、21年度のペース、やり方、動き方を目安として、ことしはどうだったのかという見方をしていけば、意外と100万人という数字は望めるのかなという感じがしますので、そういったことを指針として持っていければいいと思います。

それと同時に、アニマルファミリーのことしの4月、5月の動きはどうなのか。そういったことも踏まえていくと、何か手を打たなければならないのかどうかということを検討していかなければいけないと思います。

○原田委員長 ほかにご意見はありませんか。

○堀田委員 収支の差が開くということは、これが何年か続くと赤字がかさむだけになってきますので、動物園を愛する市民の入園料にも反映させた方がいいと思いました。

例えば、年間パスポートは1,000円で1年間に何回も入れるというのは安過ぎると思いますので、夜間に動物園をやるときは別途200円要りますとか、仕組みを少し変えるか、それが嫌らしくなるというのであれば、ポイント制ですね。今、JALのカードでも何でもついていますが、買い物で1円につき0.5円でもいいですし、買い物にお得なサービスがつきますとか、ポイントを利用して中で食べ物やお人形とか、経済的にも何か仕組みがなければいけないと思います。年間パスポートの1,000円を1回払って来年の5月まで無料というのは虫のいいお話だと思いますし、これだけ経費がかかって、動物のえさ代がかかるのは皆さんも理解しているので、半年に1回のパスポートにしてくださいというのも言い過ぎではないと思います。

○原田委員長 力強いお言葉ですね。

○服部副委員長 実は、私もどういふふうにしていったらいいかと思っていたのですが、今、すばらしい意見が出ました。確かに、入園料を上げる、年間パスポートの金額を上げるというのは本当に嫌らしくなってしまう。そうではなくて、そこと寄附を絡ませて、

年間パスポートが存在することは間違いないのですが、1回入ったら幾らかの寄附をそこの中に付加して、寄附文化、新たな寄附を位置づけていく、黙っていても寄附しているという位置づけはおもしろいと思いました。入園料の600円を800円、1,000円にするというのは嫌らしいですし、市民の動物園としてはなかなか抵抗があると思いますけれども、それを寄附金に置きかえていけばまだ違う動き方ができると思います。それにプラスして、ぜひ検討してもらいたいと思います。

○林委員 半年で切るのですか。

○堀田委員 私も、年間パスポートにすると、悪いような気がするのです。

○林委員 例えば、半年に1回にして、1枚で夫婦で入れるとすると、半年にした意味が消えますね。半年にすると高くしたという感覚がありますが、1枚で夫婦で行ったとなるとどうなるのですか。それで半月で行くと、みんなまた買うのではないですか。今は夫婦で来る人はいるのですか。僕は、夫婦で来ることはないのですが、どういうイメージでしょうかね。

若夫婦が来て、両方ともパスポートを持っている人はいるのですか。

○山崎委員 持っています。

○林委員 失礼しました。

安上がりだけれども、効率的よく、つまり、何のためにやっているのかということ、たくさん人に来てほしいということで、それをわかりやすくした方がいいということがあります。

それから、無料入園者の数が、市民の子どもたちに動物園が税金で貢献しているわけです。僕は、聞くとところによると、旭山動物園は、部外者がすごく多くて、市民は余り行っていないという話があります。これは旭山動物園と比較してはいけないのですが、比較するといろいろなことがわかりやすいのです。でも、比較してはいけないのです。広告もそうですけれども、比較してはいけない、下品なことをしてはいけないのです。しかし、基本的には、市民がたくさん無料で入ってくれているということは自慢していいと思うのです。無料の人たちは有料の人たちを連れてくるわけです。

子どもたちがたくさん来るのはいいのです。また無料な人かと思うかもしれませんが、僕も子どもころは寂しくてこちらによく来たのです。でも、子どもたちがたくさんいるというのは幸せなことで、むしろ、無料の人たちが来ているというのはいい宣伝になるはずですから、それをアピールされたらどうかと思います。その話と、今の有料パスの話の二つを合わせて、非常にいい形で人に来てもらえるようないまいやり方を山崎委員や田中委員に聞いていただきたいと思います。恐らく、山崎委員や田中委員も年間で2,000円を払うのは嫌だと思うのですが、応援していると納得できるのは、こういう力だと思うのです。

僕らは、どうしても商売つけがあつて、これをやればこうなるという発信系になってしまうのですが、どうしたら受動系の人たちに過負担してもいいかなと思ってもらえるか、

研究されたらどうですか。それは抜本的に上げる理由になるのではないですか。

○原田委員長 なかなかいい話ですね。無料だ、ただだから行こうではなくて、その費用はだれかが負担しているという考え方がいいと思います。

よくあるでしょう。これでアフリカの貧困な子どもたちの何人が救われるとか、学校の教科書代になるとか、そういうシナリオがくっついていれば、それならいいよとなるのではないかと思うのです。

つまり、今は1,000円で年間フリーだという考え方ではなくて、それを半年ぐらいにして、そのかわり、これで何人の子どもが来られると。来られるかどうかはわかりませんが、子どもたちの環境教育費をあなたに出してもらっているということをプラスアルファで考えて、なるほどそうかという仕組みであれば、割合、すんなり行けるのではないかと思います。ただ、値を上げたということでは、理由は何だということになるわけです。

○金澤委員 私の経験から行くと、クレジットカードでポイントがつく方法がありますね。いつか、ここに導入しようと思って検討したのですが、ちょっと難しかったのです。なぜかというと、カード会社がそのポイント分のお金を積み立てなければならないのです。極端な話で言うと、動物園がポイントとして使える場所だとしたら、動物園でカードを切ったとすると、それに見合う金額を積んでいかなければならないのです。しかし、直接積みめないし、クレジットカードと組み合わせると、かつ、皆さんもそうだと思うのですが、最終的にポイントは絶対に流しますね。その流したポイントをこちらに回収しようという仕掛けを考えたのですが、なかなかうまくいかなかったのです。

○林委員 難しいですね。それは危険なこともあります。逆に言うと、ポイントをお金で返してくれというと、法律で今、お金で返せなくなっているのです。それはなかなか難しく、何で代償するかということをやらなければならないので、ポイントは気をつけた方がいいのです。

うちの局内もポイントで散々痛い目に遭っています。ポイントは、単純なものではないのです。

○金澤委員 それで、今、堀田委員が言われたように、何か付加をするというのは、検討のしようはあると思います。ですから、大人は券1枚600円のところを610円という売り方にすると。その10円にどういう理由をつけるかということだろうと思いますが、そういう方法はすごくやりやすいと思います。

簡単に言うと、前回も議論になっていましたが、象を入れるための基金なのですよと、すごくわかりやすいのです。動物園に直接お金が来るのです。ですから、動物園に絶対にお金が入る仕掛けの理由をうまくつくるといえることです。

○服部副委員長 そこのことです。動物園にストレートに入って、それが見えないと、不安ですから、だれも出さないのです。間違いなく10円を寄附すればこの動物のえさ代になるのですということが見えれば、幾らでも入ってくると思うのです。

○金澤委員 知らないうちに入ってくるのです。料金が上がっているのをわからないでね。

旭山動物園みたいに、市外の方は800円で、市内は580円でしたか、差をつけてしまうのです。円山動物園は、基本構想の中でもうたっているけれども、円山動物園として魅力ができたときは年間パスポートを見直しますとはっきり書き込んでいます。魅力とは何かといたら、およそ100万人だろうと。例えば、料金を上げて2割ぐらい落ちて、大体いいところに行くかという計算をして、入れておいた話なのです。なかなか難しい話ではありますけれどもね。

今、財政は値上げのことを言っていないのですか。

○事務局（酒井円山動物園長） そういう話はしていません。

○金澤委員 いੱつき、値上げをしなければという話が出ていたのです。そういった難しさはあるけれども、何かうまく理由がつけば、やりようはありますね。

○林委員 無料の人たちは、札幌市は絶対に多いはずなのです。これは自慢していいと思うのです。それを支えているのは税金であり、それを支えているのは入場者なのだということを行った後で、それを支えるためのお金ですね。今おっしゃったように、支えるためのお金は必要なのだと言え、みんなも納得すると思うのです。それでも山崎委員は不満そうだから、1枚だけ買って、その人は次の半年は500円と言ったっていいと思うのです。最初から1,000円ということではなくて、とにかくあなたたちは優先して動物園のことをちゃんと考えてくれる、そういうふうにしてくれる人だと思わせてくれると、名誉ではないですか。その500円カードは、ほかには持てないカードにすると。委員長を喜ばせようとする、オランウータンの顔を入れて、そのカードの番号を打てば、コンピューター上で見られるとかね。

そういうある種の特典というか、1,000円を出して、次の500円はほかの人とちよつと違う扱いをされると思うと、金のカードというか、嫌らしいけれどもね。

堀田委員の話をきっかけに、ちよつと楽しくなりそうな感じがありますね。

○事務局（酒井円山動物園長） 単純にポイントというやり方もあると思いますし、今、林委員がおっしゃったように、年間パスポートはそれとして、まさにアニマルファミリーが広がった、寄附も含めたような、例えば1,500円のカードをおつくりいただいて、そういう方々に最新の情報をメールサービスでお届けするとか、年に1回の感謝イベントに参加できるとか、新しい形のアニマルファミリーですね。言ってみれば、年賀状のお年玉がついているものについていないものぐらいの話かもしれません。

○林委員 それがシンプルでいいです。

○服部副委員長 私も、シンプル・イズ・ベストだと思います。年間パスポートプラス1,000円で、これはえさ代です、寄附金がそこの中に加わっていますという単純な方がわかりやすいのです。寄附した人に収入として受けてくれたのだろうかということが見える方が大事だと思いますので、単純なやり方が一番いいと思います。

○事務局（酒井円山動物園長） 役所の制度でどんな位置づけになるのかということを中心に調べると、またいろいろなものが出てくるかもしれませんが、非常にいいヒントを

いただいたような気がします。

○林委員 高速道路の料金とガソリン代を払って旭山動物園に行って、お金を払って年間パスポートを持っている人たちが札幌市内にたくさんいるのです。うちのアナウンサーにも何人かいます。旭山動物園の年間パスポートを持っているのです。円山動物園の年間パスポートと両方持っている人もいますけれどもね。何で持っているのか、円山動物園に行けばいいじゃないかと言うのだけれども、旭山動物園のものを持っているだけでいいと言うのです。毎年、買いに行くそうです。

ですから、その糸口をどこかつかまえばいいと思うので、ぜひ工夫をしていただきたいと思います。

○原田委員長 それでは、平成23年度予算案等については、よろしいでしょうか。

(「異議なし」と発言する者あり)

○原田委員長 それでは、次に移りたいと思います。

議題3は、は虫類・両生類館のオープンについてでございます。説明をお願いいたします。

○事務局(酒井円山動物園長) 資料3でございます。

このペーパーは、先月、4月23日にオープンしましたは虫類・両生類館のオープンに先駆けたプレスリリースの資料でございます。

4月23日は、雨でございましたが、上田市長、原田学長にも来ていただき、近隣の小学生にも参加いただいて、オープニングセレモニーを行いました。あわせて、円山ライオンズクラブ様からヘビ型のベンチをご寄贈いただきまして、大型展示動物の前に設置しております。

先ほどからお話しさせていただいておりますが、非常に素晴らしい施設が完成したと思っております。当日、原田学長からもごあいさつをいただきました。斉藤先生に基本計画の段階からご参画いただきましたが、コンセプトとしては、宝石箱のようなデザインのきらきらとしたは虫類の美しい姿が見られるような動物舎でございます。

先ほどの議論の中でも出てきましたけれども、入ってすぐ正面が、センターラボと言いまして、これまではバックヤードで飼育員しか入ることができなかったところが、飼育員がふ化させ、冬眠させ、産卵させるといった作業がそのまま見えて、その動物と展示動物を交換しながらお客様に見ていただけるような構造で、日本の中では極めて珍しい獣舎になっております。

そして、前のは虫類館との大きな違いですが、前はどちらかというと大部屋でございまして、温湿度、光などのコントロールが非常に難しい獣舎でしたが、今度は、小部屋方式で、乾燥地帯、熱帯雨林地帯などそれぞれ生息地が違って環境変化に非常にデリケートな動物たちを個別に管理することができます。また、それぞれの生息地を模した擬岩を使い、その生息地に生えている植物を、動物が健康でいられるのならその植物もそのまま健康でいられるはずだというコンセプトのもとに植えておりまして、その緑も非常に美しくなっ

ております。照明も演色性の強い動物の色が引き立つものにしてございまして、水族館というよりも、むしろ美術館に近いしつらえの動物舎に仕上がったと考えております。

まだごらんになっていない方がいらっしゃれば、きょう終わった後にぜひごらんいただければと考えております。

○原田委員長 ありがとうございます。

ご質問、ご意見は何かございますか。

(「なし」と発言する者あり)

○原田委員長 ごらんになっていらっしゃる方は、直接ごらんになっていただきたいと思っております。

それでは、議題4に参りたいと思っております。

60周年事業計画についてでございます。よろしく申し上げます。

○事務局(酒井円山動物園長) 資料4のA3判横長のものがございます。

これにつきましては、前回、前々回に委員の皆さんにご意見をいただきました。前回は、60周年記念事業計画案という形でお示ししたものでございますが、もう既にスタートしてございます。具体的に動き出しているものもございますので、今回は案をとった形で出させていただきました。

まず、基本的な考え方としましては、今年度は基本計画の集中取り組み期間の最終年であること、そして、集中取り組み期間を総括し、次のステップへの基礎固めと位置づけて、この事業を進めていこうということです。

円山動物園の存在意義を高める事業として、北海道の生物多様性保全発信事業を打ち出しております。具体的には、この間に新聞報道等でも出ておりましたが、北洋銀行のほっくー基金で、今年度は道内の4動物園に150万円ずつを支援金として出すということで、この150万円を使って北海道の生物多様性保全の取り組み及び発信事業を計画しております。

次は、札幌の生物多様性発信事業です。具体的には、江別の酪農学園大学と連携しながら、都市の生物多様性を実感できる観察会や生物調査などの体験プログラムを実行していき、地元の小学生たちと一緒に動物園の森等を使いながら、改めて自分の身の回りの生物多様性を学んでいこうという取り組みをやる予定でございます。

続きまして、種の保存に向けた繁殖機能の充実です。先日の北海道新聞をごらんになった方がいらっしゃると思いますが、長年の円山動物園のテーマでもございました国際種情報システム機構(I S I S)に新たに加入することにしまして、現在、その契約に向けての作業を進めているところでございます。

今後、このシステムを使って、国内だけではなく、全世界の動物園に対して円山動物園の現在の繁殖状況、越冬の状況をオープンにして、こちらからも世界の動物園の状況をリアルタイムで把握していくことが可能になりますので、今後、より一層の繁殖機能の充実が図られるのではないかと期待してございます。

先ほどご説明しましたが、次が、新は虫類・両生類館のオープンでございます。現在、オープンしまして、大変好評を博しておりますが、これから夏、秋に向けまして、オープン記念講演を行い、有名なは虫類専門の先生方をお呼びして講演をしていただくことも考えております。また、4年ぐらい前に行いましたアート展もホール機能を使って実施しようと考えております。

最後は、日本動物園水族館協会全国会議の開催ということです。先ほども申しましたが、全国の動物技術者が札幌に集いまして、動物の飼育、繁殖、展示等についての研究成果の発表を行う第59回動物技術者研究会を、秋篠宮殿下のご臨席のもと、10月5日から7日の日程で行います。このうち、殿下は5日、6日にご臨席されるということでございます。開催を契機に、サイン看板の更新を進めるとともに、開催を記念した動物の展示も検討するというところでございます。

再三申しておりますが、行政視察も計画されておまして、その場合は、市立大学及び芸術の森という秋は特に美しいところにお邪魔させていただく形で、今後、調整を進めてまいりたいと考えております。

次に、円山動物園の特徴を際立たせる事業としまして、動物園の森・緑の観察会の実施、さけ科学館との連携事業の実施です。

昨年もやりましたが、動物園の森ということで、大学の先生とボランティアの活動がございます。あわせまして、さけ科学館との連携事業ということで、地元の水棲動物の保全、市民との観察会に非常に熱心に取り組んでいる機関と、昨年もパネル展等で連携しましたが、今年度もさけ科学館との連携事業を実施し、広く生物多様性確保の基地としての機能を実現してまいりたいと考えております。

右側に行きまして、円山動物園が取り組む各種事業を説明するパンフレットの作成でございます。これまで、種の保存やさまざまな大学との連携、道内各地との連携を進めてまいりました。先ほどの話にもありましたが、プロモーションといえますか、円山動物園の営業ツールをきちんと整備してこなかったということがございますので、60周年を契機に、こうしたパンフレット等の作成も行ってまいりたいと思っております。

それから、円山エリアの中核施設としての発信と研究です。これも、市民動物園会議の中で、再三、議論に上り、またおしかりも受けてきたところでございますが、円山というすばらしいエリアにありながら、動物園に至る交通アクセスの課題を含め、サインや交通機関の整備が十分図られてまいりませんでした。今後は、関係機関と連携して、円山公園全体の魅力向上のための研究を継続していきたいと考えております。

既に、公園管理の部分、また交通局とも、不定期ではありますが、勉強会的なものを開いております。できれば、今年度中にいい結果を出したいと考えております。

そして、動物の魅力を深く伝えるという取り組み及び教育普及の充実強化です。みんなのドキドキ体験メニューの充実です。これまで、約40種類のドキドキ体験メニューをやっておりますが、新たな工夫を凝らしたメニューの開発もやっていきたいと思っております。

す。また、パンフレット等に載せられるような、特定の飼育員によらないドキドキ体験メニューがなかなかできないところがございます。グループ制を導入したこともございますので、そろそろ定番メニューをつくっていききたいと思っております。

それから、入園者の閲覧用の図書をこのすぐ横の動物園センターに設置しておりますが、かなり古くなり、ぼろぼろになってきておりますので、実は、1,300冊を新規に購入してございます。今、ブッカーという保護するシールドの作業中でございますので、それが終わり次第、1,300冊の動物関連の図書を充実させていききたいと思っております。

つい先ほどまでご議論をいただきましたアニマルファミリー制度の拡充、充実をぜひ今年度にやりたいということで、持続可能で支援しやすい制度へ移行し、あわせて対象動物の拡充や、ファミリーの増大、収支均衡へどうつなげていくのかというところをぜひ今年度はやっていききたいと思っております。

次に、水色のおもてなし事業の実施でございます。

来場者への魅力アップとして、おもてなしのサービスを充実させ、より客層を広げ、リピート率を上げていきたいということで、園内の案内表示ですが、これも市立大学のご指導のもとに充実させております。既に、園内看板はできております。この後、動物舎につける新しい表示もやっていききたいと思っておりますし、パンフレットは5カ国語、外国語対応もやっております。園内放送も、英語ではありますが、外国語対応に取り組んでいるところでございます。この先もより一層充実させていききたいと考えております。

また、季節感のある園内装飾の実施ということですが、今、季節感を出すためのフラッグの計画も60周年記念で行っておりまして、6月から実施の予定です。

③は、既に実施済みでございますが、春まつりを4月29日から5月までに行っております。半分は雨にたたられましたが、何とかこの間の来園者数は7万7,000人を超えました。この先も、夏の動物園、9月の命の感謝祭など、季節ごとのイベントの充実を図ってまいりたいと考えてございます。

それから、ことしの2月に、冬の動物園を広く知ってもらうためのスノーフェスティバルを行いました。2月7日から13日まで実施いたしました。約3万2,000人の方にご来園いただきました。今度はスペースが半分になりますが、24年2月にも実施していきたいと考えてございます。

⑤としましては、西門前にオフィシャルステーションという無料休憩場をオープンしております。これは、前はカーニバルコーナー、ゲームコーナーでございましたが。遊園地の撤退を受けまして、建物があきましたので、そこを一部改修して、お客様の休憩、そして軽食を扱っているスペースとしました。ただ、今のところ、周りが非常に寂しい状況でございますので、その周辺の土地利用を考えているところです。アジア・アフリカゾーンのオープンまであと4年ございますので、今、あいている土地をどのように活用していくかということを精力的に詰めているところです。ぜひ、ここもにぎやかな場所にしていければと思います。

また、今年度は、キッドランドがなくなった後、子どもたちにどう楽しんでもらうか、スペースや遊具のあり方についても検討していく予定でございます。

それから、今、お手元にお配りしましたが、開園60周年スペシャルツアーを企画しております。6月20日から10月の間に考えています。そこにも、町内会、自治会対象と書きましたが、まだまだ来園者のすそ野が広がっていないということで、私どもには10区役所ございますが、そこにぶら下がる87のまちづくりセンターの所長がおりまして、それぞれ町内会と親しく深くつき合っている組織がございますので、そういうところと連携を図りまして、円山動物園に何十年も来たことがないお客様にも足を運んでもらえるような企画をつくっております。私は、全区役所に回っておりまして、この春のうちに各区長、まちづくりセンター所長まで円山動物園の取り組みを知ってもらうという営業活動を行っているところです。

内容としましては、ズー・アーカイブと言いまして、8ミリ映写機で昔にお父さんたちが撮ったものをDVD化したものがありまして、開園当時の映像を町内会からいらした方に見ていただきたいと思っています。編集内容としましては、今の動物園との比較という視点でとらえておりますので、それを見ていただき、園内で何かのメニューを一つ選んでガイドツアーをさせていただきたいと考えています。これでトータル1時間ぐらいでございます。そして、先ほど申しましたようなオフィシャルステーションという休憩場で、無料のドリンクを、これはコカ・コーラにご協力をいただくことになっておりますが、ウーロン茶やコカ・コーラを飲んでいただいて、一服していただきます。お昼までかかるようであれば、シロクマ弁当という限定メニューの開発をしておりますが、それで舌鼓を打っていただいて、あとは自由にご見学いただくという簡単なメニューでございます。

そうしたことを6月から10月にかけて行いまして、広く皆様に、これをきっかけに動物園に来ていただければと考えているところです。

今、ターゲットとしては15名から50名程度の団体でございまして、今の対応キャパからすると、1日2グループ程度、対応できると思っております。同じようなことをやりながら、円山動物園はおもしろかったというお話が地域に広がっていけば、少しでも100万人に向けての取り組みになるのかなと思います。

そして、サポート制度の充実ですが、現在のガイドボランティアを核としまして、市民等が各種業務をサポートする制度を引き続き構築していきたいということでございます。

一番最後は、連携事業の推進です。

これは、前回も議論になりましたが、J Cの60周年を記念しまして、60周年同士で今年度は円山動物園を応援したいということでした。ついては、象のレンタルを実現して、夏場に円山動物園に象を持っていきたいというお話で動いております。

当初、海外情勢がかなり厳しく、具体的に言うとタイでございまして、半年借りてくるのは難しくなったので、国内の動物園から2カ月程度借りてこようという話になっておりましたが、その話を進めている最中の3月11日の震災で、J C内部で再度総会を開きま

して、現在は、動物園への象というよりも、まず震災支援だろうと総会で決議されたとお聞きしております。ですから、一たんは白紙とお伺いしております。

J Cと札幌市としましては、まちづくりのパートナーシップ協定を結んでおりまして、今後はまちづくりに協力していこう、特に今年度に関しては円山動物園を応援していこう、子どもたちに夢を与えるものを作っていこうというお話でございますので、この先、J Cとはさらに連携内容の詰めをしていく予定でございます。

その他、劇団四季がオープンしまして、ライオンつながりということもありまして、双方でのPR、にぎわいを園内に創出するというをやっております。

それから、既に終わりましたが、NTT東日本の技術協力のもと、震災の次の日の3月12日にオープンしました地下歩行空間の北2条広場におきまして、円山動物園、春の動物映像展をやりました。具体的には、4月28日から5月8日の間でございます。私も28日、29日と、トークショーをやりました。広場部分はお客様がとまってもいいのですが、通路部分はとめてはいけないという難しい部分はありました。ただ、お客様と非常に近いところで円山動物園の動物たちの映像、そして、NTTが今回開発されました裸眼3D映像のライブも映しました。期間中、約1万人の方に足をとめていただいたという報告をいただいております。これをきっかけに動物園にご来園くださいということをやらせていただきました。これについては、コンテンツがございますので、また、夏の動物園、秋の動物園と、服部副委員長から先ほど再三ありましたが、アニマルファミリー等のプロモーション活動も含めて、地下歩行空間を活用していきたいと考えております。

60周年事業計画については、以上でございます。

○原田委員長 ありがとうございます。

何かご質問はございますか。

○服部副委員長 私から少しだけ申します。

大変大事なところで、60周年事業としてスタートしたわけです。

まず、第1点は、札幌円山動物園としての60周年であるわけですから、その中で今動いている計画の中に記載されているとおり、人と動物と環境のきずなをつくる動物園というコンセプトを訴え続けるべきだと思います。

園内だけの考え方、理念ではなくて、広く市民とともに共有することが大変大事であって、円山動物園はどんな動物園なのだろうかということを目瞭然に知らしめるためには、人と動物と環境のきずなをつくる動物園なのだ、こういうことを事あるごとに訴えかけていくべきではなかろうかと思えます。そうすることによって、来ていただいて、その存在意義、円山動物園とはこういうものなのだということを理念に基づいて再認識してもらおう。旭山動物園とは違う、円山動物園は動物と環境のきずなをつくる発信基地だったのだということを理解していただける運動を示していただきたいのです。単なる開園60周年ではないのだということです。

そのためには、円山動物園の存在意義を高める事業として生物多様性の発信事業、ある

いは、それにかかわるいろいろな事業をやっていくわけでしょうけれども、この辺をもっと具体的にわかりやすく位置づけていかれたらいいと思います。

例えば、札幌市民は、オオムラサキを大変興味深く見ておりますし、オオムラサキにかかわる問題として、札幌にどれだけエゾエノキがあるのか、その分布図をつくってみると。あるいは、エゾエノキの苗木無料提供サービスがあってもいいです。私が聞いたことですが、エゾエノキを植えたいのだけれども、エゾエノキはどこに行ったら買えるのだろうかという人もいらっしゃいます。

そういう意味では、生物多様性に絡めた発信です。ビオトープの問題もありますし、いろいろな意味で、この辺をもっとわかりやすい形で発信すると。これは、イベントになるのかもしれませんが、その辺の強化を図られたらよろしいと思います。

いずれにしても、広く生物多様性の確保のベースキャンプとして動物園が存在するのだということを内外ともに打ち出すと。これが林委員の言われたことだろうと思うのです。旭山動物園と違うのだということを位置づけることであろうと思います。

あとは、先ほど報告があったように、動物園へのアクセスということが非常に大きな問題になります。そういう意味では、改善というよりも、課題をしっかりと見据えた上での検討——検討はもう終わっておりますので、あとはやるか、やらないかということだと思います。ダイナミックに行動していただきたいと思います。いろいろな障害はあると思いますが、テスト的に馬車を走らせてみることも必要ではなかろうかと思います。

最後は、おもてなし事業の実施ということで、いろいろなイベントをやっておられます。大変大事なことだろうと思いますが、おもてなしのサービスを充実し、より客層を広げ、リピート率を上げ、集客を確保すると言うのですが、おもてなしのサービスを考えていくと、動物園の職員のおもてなし力向上のための教育がどうなっているのか、あるいは、おもてなしのためのボランティアの方々の意識はどうなっているのか、さらには、園内に共存する施設関係、食堂やコンビニとの情報共有がなされているのか、これを早急にやっていくべきだと思います。

これもリスタート委員会からお話ししていることですが、おいしいとはいえない食堂が複数ありますし、コンビニ等々も設置しましたがけれども、セブン-イレブンの意識の中でのコンビニであって、円山動物園のコンビニにはなり切っていないです。メニュー一つにしても、円山動物園にふさわしいメニューがあるのか、円山動物園らしいセブン-イレブンのコンビニだという位置づけはどこにもないです。ある意味で言えば、あそこの職員なのかどうかわかりませんが、コンビニの職員であって、円山動物園にかかわっているコンビニの職員ではないという位置づけです。この辺でのおもてなしが、セブン-イレブン方式のおもてなしで来られたのでは困ります。私が見ている中ではそういう位置づけなのです。そういう意味では、円山動物園と一体化したおもてなしという思想をしっかりと植えて実践していただきたいと思います。コンビニの商品メニュー構成、食堂のメニュー一つにしても、あそこでは二度と食べたくない。外から道外のお客様が来て、みそラーメンを

食べました、ああ、これがみそラーメンか、もう二度と食べたくないと言われたいような品質をきちんと担保することが大変大事だと思います。

そういった意味では、皮肉めいたことを言いますが、動物園の職員の皆さんがこの食堂で毎日食事をとれるかどうか、毎日通いたいと思えるようなメニュー構成、品質構成にさせていただくと、お客さんも喜んでくれるのかなと思います。

いずれにしても、円山動物園の中に介在しているいろいろなボランティアの人や、コンビニの人、かかわっている食堂関係とか、いろいろな人たちが一体感のある動きを示していかないと、60周年の事業が空虚に終わってしまう嫌いがあります。このおもてなし事業の実施は、いろいろなイベントを打ち出すことはいいのですが、これは全体で実施するわけですから、そういった意味では教育と情報がすべて一体となっている動きを示していかないと、60周年事業は空虚に終わってしまう嫌いがあり、ひいては100万人の達成はおぼつかないということになりかねないと言っておきます。

おもてなしの状況がどうなっているのか、早急に園内のチェックをしていただきたいと思います。

○原田委員長 ありがとうございます。

今年度、60周年事業をやるに当たって、ちょうど集中取り組み期間の最終年度でもありますし、総括であり、まとめでありますので、そこでのいろいろな行事に関して、ここに書いてあるような人と動物と環境のきずなをつくる動物園と。これはやや抽象的なので、それを少しわかりやすくしたものが次のページの基本構想の概念図です。しかし、これでもまだわかりにくいので、そのあたりのキャッチフレーズを、どんな事業であってもキャッチフレーズパネルがどこかにくっついているということが必要な気がします。せっかくいろいろな事業をこれだけ展開していくわけですから、何か統一的なキャンペーンを張っていくことが大事ではないかと思います。これだけやればもうわかったよという人が一人でもふえていけばいいのではないかという感じがいたします。

ほかに何かありますか。

実は、きょうの予定は4時まででしたが、15分過ぎました。

少し延長させていただいてよろしいですか。

○林委員 私は4時半に出ます。

○堀田委員 私も20分くらいには出たいです。

○原田委員長 それでは、一応は4時半をめどにして、20分では難しいかもしれませんが、よろしくお願いします。

○事務局（酒井円山動物園長） それでは、かいつまんでお話しします。

先ほど、施設評価でアンケートの話もさせていただきましたが、そこも含めましてこういう視点も入れたいと思います。どの程度早急にできるかはわかりませんが、間違いなくやりたいと思います。

続きまして、きょうのメインテーマであるのですが、円山動物園基本計画の進捗状況に

ついてというA3判の横長のものがございます。

この内容につきましては、皆様もよくご存じの緑のこの本が、平成20年8月以降にどの程度進められてきているのかというところを私どもなりにチェックしてまいりました。

やり方としましては、今、お配りいたします一枚一枚のシートに関しまして、計画どおりに進んでいるのか、いないのか。具体的に言うと、予定どおり進捗しているが100点、一部未実施が含まれるがおおむね順調に進んできているが70点、未実施が多く、十分に進捗しているとは言えないが30分、全く手つかず、未着手、未実施についてはゼロ点という形で評価して、点数化したものがございます。

全部で79事業ございまして、トータルの平均点数の進捗率が83%でございます。

この構成に沿っていきますが、円山動物園の役割と行動指針に37事業がございます。これに関する進捗率は95%と評価しております。総合学習、出前講座、一日飼育係等、さまざまな教育普及事業もこういう中でやっております、平成22年度だけで見まして152件、3,505名のご参加をいただいております。この中を見ていただきますと、今後の課題としましては、イベント内容の充実や、展示方法の工夫、園内職員の資質向上、速やかな情報更新が今後の課題ではないかという評価をしております。

次に、2番目の三つの柱（行動指針）です。

わたしの動物園という視点からの行動、生物多様性の確保に向けた行動、自然豊かな円山エリアの中核施設としての行動、この三つをやってきますということが基本計画の行動指針でございました。

これについての進捗状況はどうかということですが、68%でございます。アニマルファミリーが513万4,000円という22年度決算予定でございます。また、ZOOガイドボランティアが79名、森のボランティアが21名というのが象徴的な数字でございます。

こうした内容の中で浮き彫りになってきたものが下にある課題です。市民参加のメニューや参加方法の検証が必要だろうということです。それから、オオワシの野生復帰が一つの大きな目玉になっていきましたが、経産省、環境省、文科省、外務省という各省庁の考え方の違いであったり、他の協力機関との調整も現在は難航しております。ただ、オオワシ復帰の技術に関しましては、野生復帰施設が完成するなど、技術の蓄積が進んでいますが、対外的な調整はまだまだこれからでございます。

それから、先ほどのアクセスの問題等のご指摘もございましたが、円山のまちづくりエリア全体での取り組みがこの3年の中ではまだまだ進展が十分ではなかったという評価をしております。また、先ほど来、議論になりましたアニマルファミリーのすそ野拡大等についても今後は議論をやり残している部分だろうということで、進捗率としては68%という評価です。

右側に行きまして、経営戦略とソフト事業の21事業でございます。この中で大きなものは、先ほどの議論の中で収支均衡ということの一つの目標にしております。そのための

入園者倍増、すなわち計上収入の倍増、経常的支出の30%減により収支均衡を目指しているのが基本計画の根本の考え方でございます。その結果が、先ほど申しましたように、経常的収入は64%増加したけれども、経常的支出は、30%が必要なところ、7%の減にとどまっているというのが象徴的な数字でございまして、トータルとして進捗率は60%という位置づけでございます。

先ほど来お話になっております環境教育拠点としての積極的なセールス、観光資源としての積極的にセールスもあわせてやる必要がありますし、プロモーション等をやりながら、一層の収支均衡に向けた取り組みが必要になるというのが現状の評価でございまして。

続きまして、事業展開の考え方（ソフト事業）です。

この中でも、先ほど説明させていただきましたように、年間80、90、100というたくさんのイベント事業、ソフト事業をやってきております。お客様を引きつけ、メッセージを伝えることを基調としてこの4年間頑張ってきてまいりました。その成果としまして、この部分の進捗率は98%という評価をさせていただいております。22年度は76件のイベントを実施しました。円山ZOO LOHASナイトや狼祭等の新規イベントも実施しておりますし、環境教育用の学習教材、ワークブックも開発してまいりました。また、公式ホームページをリニューアルし、アクセス数も動物園の中では全国一というところまで頑張ってきてまいりましたし、飼育員のブログ、動画サイト等、各種メディアの活用もかなり頑張ってきたのではないかとございまして。

今後の課題としましては、観光客というお話もありましたが、市民だけではなくて、インバウンドの対応にも今後は力を入れていく必要があるだろうと思っております。海外対応もこの中に入ってくるかもしれません。また、各種イベント展開時の財政運営上の工夫も必要になってくるだろうということです。

最後に、第3章の施設整備と動物管理についての21事業でございまして。

これに関しましては、進捗率は76%という評価でございまして。この間に、動物施設10棟の建設、便益施設2棟の建設を行ってまいりました。ただ、76%ですが、ここに書いているのは10年計画を見据えた内容でございまして、そのうちの4年間でここまでやったということでございます。

これまで、サル山の改修、類人猿館の改修、動物園の整備、エゾシカ・オオカミ舎の建設、オフィシャルショップ、カフェ、コンビニ等のオープン、エゾヒグマ館の建設、野生復帰ゾーンの建設、そして、今回オープンしましたは虫類・両生類館、23年度はアジア館に着工いたします。こういうことを実施してきております。

やはり、この中でも課題なのは、円山エリアの整備です。今まで円山動物園の中はかなり進めてきておりますが、例えば円山エリア全体を使った新エネルギーの導入などに関しては、いまだ手がついていない状況でございまして、野外ステージの建設もこの中にございました。これは、昨年度に予算要求をしましたが、財政の方から認められなかったという経過もございまして。それから、傾斜地ということもありまして、旭山動物園のような園

内交通も必要ではないかということがあります。実は、キッドランドを運営しておりました札幌振興公社にも園内交通をやらないかという打診はしましたが、コスト上の問題から難しいという回答を得られて、そこでとまっていた状況もございました。この辺の運営方法等も含めて、再度、検討していく必要があるだろうと考えております。

一番最後は、市長公約の中にも載っておりますが、アジア象の導入について検討するというのでございます。これにつきまして、今後、精力的に入れるのか、入れないのか、市民議論をどのような形でしていくのかということ今年度以降にやっていく必要があるだろうということです。

以上が現在の進捗状況の評価でございまして、トータルとしては83点ということで、まさに100万人を目指して、昨年度は83万人でございました。数字合わせではありませんが、我々としてはまだ8合目にいるのかなというところでございます。

この進捗状況を踏まえまして、今後、どのように見直しを行っていくのかというスケジュールが、次の資料5-2です。

本日、5月30日に第12回市民動物園会議で、進捗状況の確認、検証、課題の整理をご報告させていただきまして、ご意見をいただき、その後、上田市政3期目に入りました第3次新まちづくり計画の策定が札幌市全体の中で行われまして、これと整合を図りながら今回の見直しを行っていく予定でございます。前回の例から見まして、動物園の項目としては、二、三項目を入れ込んでいくことになろうかと思っております。

先ほども申しましたように、これに関しましては、上田市長のマニフェストの内容が中心に入ってくるだろうということでございまして、この中には、アフリカゾーンの整備、子どもたちが遊べるスペース、象の導入検討という3項目を中心としてこの中に盛り込んでいく予定と思っております。概算でおよそ30億円という目安が示されている内容です。この辺と整合を図っていかなければならないと思っております。

今後、円山動物園としまして、次回の市民動物園会議の中では、この基本計画の見直し案を今後つくっていく予定でございまして、来月、もうすぐでございまして、今週から、現場を預かっております飼育員たちと平場での議論を踏まえまして、見直し案の策定をこの1カ月で集中的にやっていく予定です。

その後は、8月上旬に市の内部の調整会議がございまして、早くも9月下旬には24年度の予算要求、10月下旬には市長副市長会議という市の内部での意思決定があり、市の考え方を11月中旬に、次々回の14回市民動物園会議で見直し案の確定をさせていただく予定です。11月下旬にはパブリックコメントを募集いたしまして、1月下旬の平成24年度予算案の公表と合わせて基本計画の見直し案の公表ということにつながっていく予定で現在は考えております。

○原田委員長 ありがとうございます。

非常に多くの項目ですが、79事業の内部評価の報告をいただきましたが、何かご意見はございますか。

(「なし」と発言する者あり)

○原田委員長 それでは、基本計画の進捗状況については、動物園サイドとしてはこのように認識しているということですので、これでよろしいかと思えます。これをベースにして、これから先の計画が進められていきますので、動物園内部で基本計画の見直し素案をつくって、その後の段取りは、ご説明にあったとおり、来年の1月下旬までに基本計画見直し内容の公表に打ち込むということですのでございます。

全般的にご意見はございますか。

このような進め方でよろしいですか。

(「異議なし」と発言する者あり)

○原田委員長 それでは、これからこういう取り組み方でいくということですのでございます。

一番最後に、次期市民動物園会議委員の選定について、ご説明いただきたいと思えます。

○事務局(酒井円山動物園長) 今、委員長からもお話がありましたが、この先に見直しをすと言いましても、基本は人と動物と環境のきずなをつくる動物園というベースが変わらないと思っておりますので、その後の社会状況の変化、財政状況の変化、市民意識の変化等をこの中にどのように取り込んでいくのか、変化したものに対して我々としてどう見直していくのかという視点でのご提案になるのではないかと考えております。今回は、再度、現在の原田委員長以下、皆様に見直し素案を議論いただきたいと思っておりますが、市民動物園会議の委員の皆様の任期が8月22日までとなっております。したがって、次回の市民動物園会議が現委員での最終回になります。そして、11月中旬の市民動物園会議での見直し案の確定に関しましては、新しい委員の皆様によりまして、現委員でご議論いただいでつくったものを確定させていくという流れを考えております。

それについて書いておりますのが資料6でございます。

市民動物園会議は、円山動物園基本計画の理念が守られ、きちんと目標に沿った計画が行われるよう、きちんと動物園を監視していくために、市民目線で、また専門的な意見を反映していくことをねらいとしてつくったものでございまして、19年から運営されております。

円山動物園は、この間、市民動物園会議において出されましたさまざまな意見や基本構想を踏まえた取り組みを進めております。基本計画も、先ほど言いましたように83点ではございますが、おおむね順調に遂行してきているのではないかと思います。

60周年を迎えまして、これまで以上に来園者本意の動物園、環境教育、人と動物と環境をつないでいく動物園の実践ということなどを目指すとともに、基本構想の目標であります入園者100万人を何とか達成するために、今後は動物や環境の専門家、経済界関係者の意見も踏まえた取り組みを展開することが重要と考えています。

また、先ほどの評価の中でもかなり厳しいものが出ましたが、円山地区というところがどうしても弱いので、この構想実現のためには地域住民と協働したまちづくりも重要ではないかということから、地域の代表の意見も踏まえた取り組みを展開することが重要と考

えてございます。

このような考え方から、新委員につきましては、経営の専門家、動物・環境の専門家、経済界の関係者、メディアの関係者、地域住民の代表者、公募による市民委員を3名予定しておりますが、こういった新しい委員の構成を今後検討してまいりたいと思います。

また、現在の委員会との継続性、マインドを忘れないという意味からも、リスタートのときからずっとご指導をいただいております原田現委員長には、引き続き、顧問として残っていただきまして、スムーズな移行を行ってまいりたいということで、こういう案を考えております。

ちなみに、公募による市民委員の選考については、前回もそうでしたが、6月上旬に広報さっぽろで公募委員のお知らせをやってまいりたいと思います。6月末で公募委員の募集を締め切りまして、7月上旬に公募委員の1次選考、7月下旬に2次選考という形で、7月下旬には新しい市民委員を確定させてまいりたいと考えております。

次期市民動物園会議委員の選定については、以上でございます。

○原田委員長 ありがとうございます。

私もそんなに日にちがたったのかと驚きましたが、次期市民動物園会議委員の選定という時期になったようでございます。

委員の皆様には、長い間、いろいろ有意義なご意見をいただきまして、本当によかったと思います。次回には、心おきなく、これだけはというご意見を言い残していただき、次につなげていっていただきたいと思います。

このような進め方でございますが、ご意見がございましたらお願いいたします。

よろしいでしょうか。

(「異議なし」と発言する者あり)

○原田委員長 ありがとうございます。

それでは、議題7の新着動物及び出産動物等について、お願いいたします。

○事務局(酒井円山動物園長) 前回以降、円山動物園で新着または出産した状況をご説明いたします。

ことしも、リスザルがその後も続々と生まれておりまして、現在までに4頭が誕生してございます。2月から4月にかけてでございます。

3月8日には、例のホッキョクグマ繁殖プロジェクトで、一昨年は道内の連携でございまして、一部、北海道の中だけかというご批判がありましたが、今年度は、繁殖調整会議を全国レベルでやりまして、全国規模の移動を実現させました。8動物園が参加しました。今年度、ララは子育て中ということで、デナリとペアリングができませんでしたので、今回は1頭、別の雄が余っているという豊橋総合動植物園よりキャンディーという18歳の雌が来園して、デナリとペアリングをしてございます。なかなかいい感じになりつつも、ふいとなってしまうたり、厳しいところはあります。ただ、思ったよりも相性がよく、今年度にだめでも、もう一年はチャレンジできるかなというところですよ。

4月7日に、フンボルトペンギンのひながふ化しております。

4月15日に、サーバルキャットのケビンが和歌山アベドンチャーワールドより来園しております。BLでございます。ポッキーという高齢の個体がありますが、これとのペアではなくて、アフリカゾーンのときにはまた別なペアを入れる予定でございまして、先駆けて入れたところでございます。

5月1日に、一昨年にも続きまして、ユキヒョウのアクバルとリーベに子どもが誕生しました。2頭生まれましたが、2日後に1頭が死亡したということで、残念ながら、今回はツインズではなくて1頭、雌というふうに先日発表させていただきました。

5月9日に、シンリンオオカミのジェイとキナコに子どもが誕生しています。現在、2頭を生育中でございます。まだ性別判定はできておりませんが、近々に確定する予定でございます。

主な新着・出産状況は以上でございます。

次に、主な転出動物の状況でございます。

私どものところにおりました帯広所有のピリカが、キャンディーを受け入れるということで、スペースの関係もありまして、旭山動物園へたん移動してございます。

また、帯広に行っておりましたキロルでございますが、全国の繁殖計画の中で、浜松にいましたバフィンという個体が大阪の若い雄とペアを組むということで、浜松動物園からバフィンが移動しまして、教育展示用の個体がいなくなるということがありました。そこで、移動を促進させるため、帯広動物園と相談しまして、キロルを浜松動物園に移動しております。今は、大変人気になっており、ポスターでも前面に出て、とても歓迎されていると聞いています。

新着動物と転出動物に関しては、以上でございます。

○原田委員長 ありがとうございます。

議題で主なものは以上でございます。

最後に、次回の日程について、ご説明をお願いします。

○事務局（酒井円山動物園長） 次回の日程については、先ほど申しましたように、7月の下旬ころを想定しております。近々に原田委員長のご予定を調整させていただいて、各委員と日程調整をさせていただきたいと考えております。

今回は、最終ということもありまして、皆様にご出席をいただければと思いますので、なるべく早目にやりたいと思います。よろしくをお願いします。

○原田委員長 それでは、次回は7月下旬でございますので、よろしくをお願いします。

4. 閉 会

○原田委員長 それでは、第12回市民動物園を終了いたします。

ありがとうございました。

以 上